

平成24年度 在宅医療連携拠点事業成果発表



医療法人明輝会内村川上内科
在宅医療連携拠点事業推進室

<http://www.meikikai.com>

当院の拠点事業の範囲について

- ◆ 日常的に連携する場面が多く想定される医療機関・介護系事業所があり、当院を中心として車で約30分圏内を範囲に設定
- ◆ 鹿児島市医師会支部区分に基づく「上町支部」と「伊敷支部の一部」を事業範囲とし、便宜上【上町地区】と総称

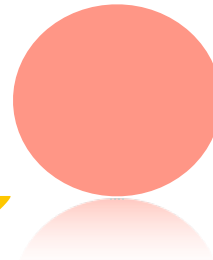


～ 引用 ～

※Google マップ

※第5期鹿児島市高齢者保健福祉・介護

これまでの当院の取り組み



- ❖ 上町地区多職種交流会の開催（4回）
- ❖ 地域住民への普及啓発活動（7回）
- ❖ 地域住民向けサロンの開催（6回）
- ❖ 在宅医療に関する勉強会の開催（3回）
- ❖ 在宅医療パンフレットの作成
- ❖ 地域包括支援センターや医療機関との連携
- ❖ 情報共有ツール「キュアケアネット」の開発と運用

第1回上町地区多職種交流会

- 平成24年7月17日、鹿児島市医師会会議室にて開催
- エリア内の医療職、介護職や行政職から69事業所161名参加
- 事前アンケートを基に同職種でグループを構成し、グループワークにて「多職種連携の課題」「多職種への要望」「課題解決のための意見」を抽出



第2回上町地区多職種交流会

- 平成24年9月25日、鹿児島県医師会館大ホールにて開催
- エリア内の医療機関・介護系事業所の65事業所146名が参加
- 限られた時間の中で解決策を導くため、第一回で多く意見の上がっていた課題に議題を絞る
- 「多職種連携を円滑に行う為の情報共有の方法」についてグループワークを行い、解決策や新たな意見などが抽出される



第3回上町地区多職種交流会

- 平成24年11月17日、鹿児島市民文化ホール（市民ホール）にて開催
- エリア内の医療機関、介護事業所だけでなく、鹿児島市全域に案内を行い320名が参加
- 静岡県浜松市の「坂の上ファミリークリニック」より2人の講師を招き、講演会を実施
- 「在宅看取りの現場から」というテーマで、在宅医療の取り組みについて医師、看護師の立場から講演を頂き、聴衆と意見交換を行う



行政・管理者対象上町地区多職種交流会

- 平成24年10月19日、鹿児島県医師会館中ホールにて開催。行政および上町地区の医療機関、介護事業所など40事業所の管理者67名が参加
- 第1回・第2回交流会で抽出された課題や意見、解決策などを報告
- 都道府県リーダー研修にて得た情報の報告
- 「それぞれの立場より在宅医療・看取りを考える」というテーマでグループワークを行い、抽出された意見を国への提言としてまとめた



地域住民への普及啓発活動

○ 鹿児島市北部保健センターでの講話

- ・ 「認知症講座」講師として参加
- ・ 講座後、在宅医療について講話を行う
- ・ 7月12日、26日と開催し、計97名参加

○ 地域行事への参加

- ・ 地域の敬老会、ふれあい会食、おたっしゃクラブなどへ参加し、パンフレット紹介など実施

○ 地域住民向けフォーラムの開催

- ・ 10月26日、吉野公民館体育館にて開催
- ・ エリア内の医療機関、介護事業所、鹿児島市役所に協力を頂き、それぞれの紹介ブースを14箇所設置
- ・ 在宅医療について医師より講演会を実施
- ・ ブース関係者・地域住民など合わせて102名参加
- ・ 参加者からは「訪問診療と往診の違いがよく分かった」「また開催して欲しい」と好評であった



地域住民向けサロンの開催

○ 第1～3回地域サロン

- ・ ボランティア養成を目的とした地域住民向けサロン
- ・ インストラクターを招き、8月25日・9月29日・10月31日に「笑いヨガ講座」を開催
- ・ 3回目はデイケアかがやきにて講座受講者がボランティアとして高齢者とのふれあう機会を作った



○ 第4～6回地域サロン

- ・ 講師を招き、11月24日・12月22日・1月26日に健康太極拳教室を開催
- ・ 講座受講者と在宅介護について意見交換会や在宅医療パンフレットの活用し啓発活動を行った
- ・ 「家の近くでこのような会があると参加しやすい」「お友達が出来、参加が楽しみ」と受講者には好評であった



在宅医療に関する教育・研修

○ 医療と介護の勉強会

- ・ 8月27日 南日本銀行花棚支店会議室にて実施
- ・ 講師を招き「褥瘡ストーマケア」勉強会を開催
- ・ エリア内の訪問看護ステーション、訪問リハビリ、ヘルパーステーション、デイサービスより23事業所、合計55名が参加
- ・ 訪問看護ステーションからのケース報告もあり、活発な意見交換が行えた



○ DVDによる研修会

- ・ 12月17日、12月19日 デイケアかがやきホールにて開催
- ・ 国立長寿医療センター制作のDVD「在宅医療の風命と生活を支える」の視聴による研修を実施
- ・ 法人内15事業所、合計113名が参加し、在宅医療の重要性について理解を深めた



パンフレットの作成

- 平成24年度 在宅医療連携拠点事業の必須タスクの紹介と、当院の取り組みについての説明を目的とした『在宅医療連携拠点事業』の作成
- 一般の方を対象に、在宅医療の啓発を目的とした『ご存じですか？「在宅医療」について』を作成
- エリア内の医療機関・介護事業所・地域包括支援センターへ無料で送付し、活用のご案内を行った



医療機関・地域包括支援センターとの連携

○ 地域医療機関（医療相談員）との連携

- ・ 退院後、在宅医療を検討しているケースのカンファレンスに出向き、地域医療機関と顔の見える関係作りが出来た
- ・ 終末期の在宅医療相談が昨年よりも増加した
- ・ 定期的にエリア内の医療機関を訪問し、在宅医療連携拠点事業について説明の機会を持つことで事業の周知が図れた

○ 地域包括支援センターとの連携

- ・ 地域ケア会議に参加
- ・ 在宅医療連携拠点事業についての周知は図れた
- ・ 地域包括支援センター経由の相談事例もあった



当院における多職種連携



○ 当院の病棟回診・カンファレンス

- ・ 毎週月曜日の午後、病棟回診を開催
- ・ 医師、病棟看護師だけでなく、訪問看護ステーション、理学療法士、管理栄養士、臨床放射線技師、ケアマネジャー、医療ソーシャルワーカー、事務職員など患者に関わる多職種が参加している
- ・ 合わせてカンファレンスを行い、医療と介護の情報共有を行っている

キュアケアネットの開発と運用

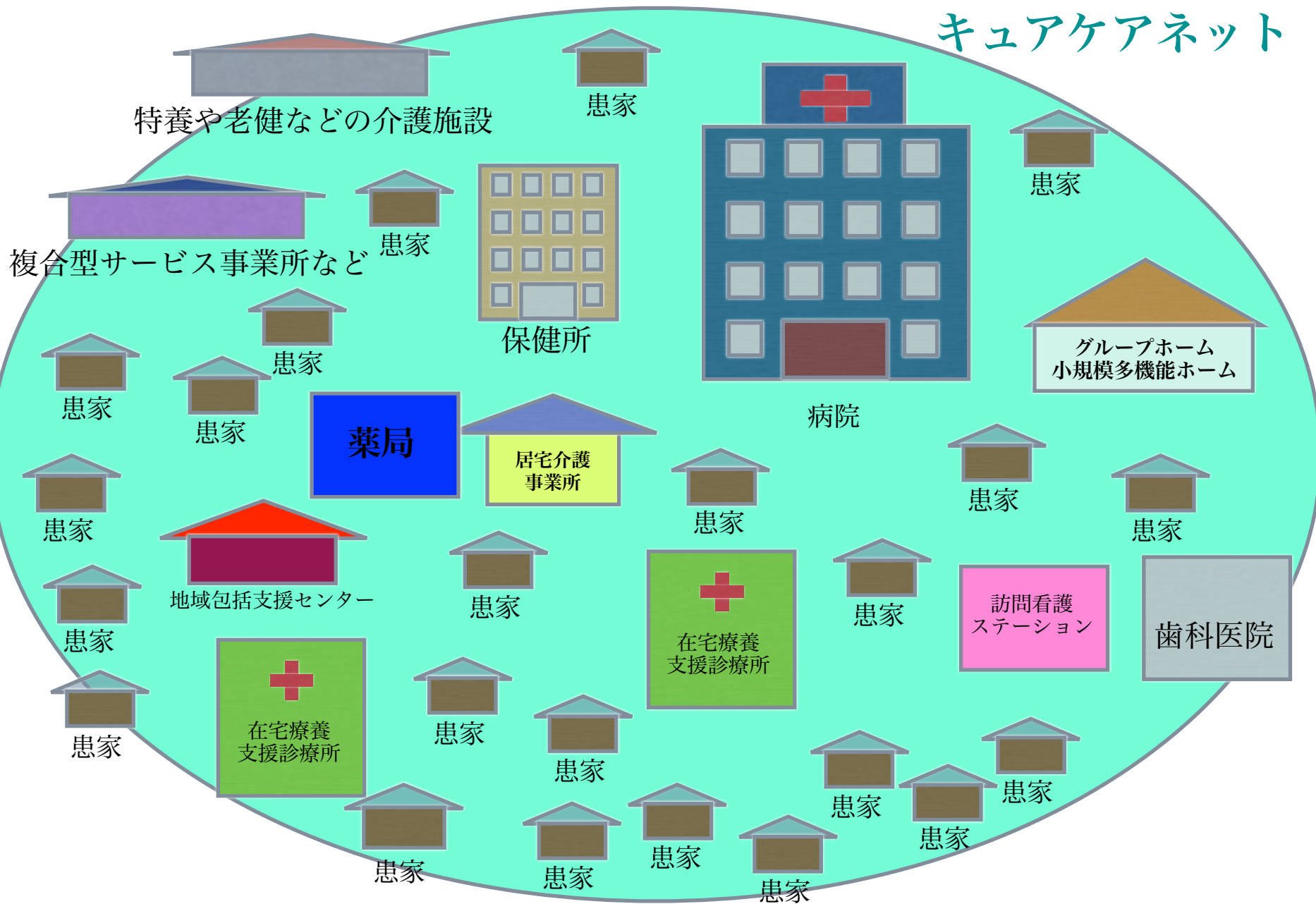
- 在宅医療の質を高めるために情報共有を図れる何か便利なシステム（ツール）が必要
- 安価で使いやすい情報共有システム
「**キュアケアネット(CCN)**」を我々自身で開発し使用中

キュアケアネット(CCN)とは

- 我々のアイデアをもとに、我々自身が試行錯誤しながら作ったシステムである
- 初期費用は約25万円と非常に安い。その後の維持費は電気代とインターネット料金だけ
- セキュリティーと個人情報保護にも十分に配慮した
- 一人の患者にアクセスできるのは、アクセス権を持った人だけ。たとえば、主治医、訪問看護師、ケアマネジャー、ヘルパーなど
- アクセス権の設定は我々自身で行うのでいつでもアクセス権のオンオフが迅速にできる
- 経時的にメモを残したり、患者のスケジュールを書き込んだカレンダーを見たり書いたりできる
- これらのすべての作業をパソコン、スマートフォン、タブレット端末からアクセスし、情報を見たり、書いたりできる

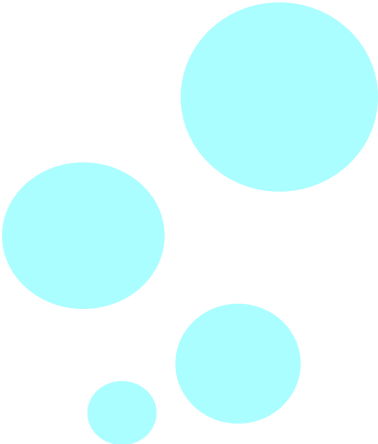
上町地区に住む在宅患者を連携する

キュアケアネット



拠点事業の活動を通して

- ＊ 交流会や訪問を通して、地域の医療機関や介護事業所等へ在宅医療連携拠点事業の必要性や重要性の周知は図れた
- ＊ 一法人の呼びかけでもある程度は実施できたが、ステークホルダーの調整やより多くの医師に参加してもらうには行政・医師会の働きかけが必要不可欠である
- ＊ 地域住民へ在宅医療について普及啓発するためには、周知方法の工夫と継続した働きかけが必要である
- ＊ 情報共有ツールの利用で多職種間の情報連携が円滑に行えることがわかった



ご静聴有り難うございました

鹿児島県 内村川上内科 発表者 川上秀一

馬渡文世 池田悠 内田準二 新地一浩 汐田一誠